

地域と歩むコミュニケーション紙

MIYAKO

Vol. 13

2017 春号



地域協議会だより



復興が進む田老のまち（鮭・あわびまつりの様子）

主な内容

台風10号の爪あとと地域のつながり
～防災に地域で取り組む～

みんなの力で地域を創る
～平成28年度実施事業紹介～



平成29年度イベントカレンダー

ふるさと再発見

黒石市・宮古市 姉妹都市締結50周年



インタビュー 野崎盛夫さん（茂市区自主防災会・会長）

甚大な被害を受けた茂市地区。地区の自主防災組織の取り組みを「茂市区自主防災会」会長の野崎盛夫さんに伺いました。

茂市区自主防災会は、平成27年2月24日に設立しました。茂市は、閉伊川と刈屋川の合流する内陸部にあります。東日本大震災の沿岸部の津波被害を見て、津波以外の自然災害に対する備えの必要性を感じ、「自分たちの地域でやれる範囲で防災活動をやろう」と結成しました。また、震災後、市は防災士育成に力を入れており、茂市区内でも資格取得者が増えていたことも後押しとなりました。

茂市区自主防災会は、防災活動の中に「福祉」の要素も加えていることが特徴です。個人情報の取扱いが難しいところもありますが、高齢者の一人暮らし世帯の名簿を作成し、地域自治会長や民生・児童委員と連携しながら、豪雨時の安否確認や声掛け、豪雪時の雪のけ応援隊なども行っています。

今回の台風10号では、高齢者を始めとする住民の皆さんへの声掛けを行い、避難所へ誘導しました。自治会単位での安否確認、避難所運営への協力を行いました。翌日からは、自分たちのできることを行政へ提案し、地区住民で力を合わせ、片付けなどの清掃作業を行いました。

いざ大災害に直面すると、戸惑いがあったのが正直なところですが、しかし、普段から地域内で様々な活動と一緒にやり、顔を合わせていることが、組織として機能的な初動活動につながったのではないかと思います。茂市区特有の利点かもしれません。消防団、行政、一住民、それぞれに果たす役割があることを実感しつつ、1人の犠牲者も出さなかったことに胸をなでおろしています。



茂市区自主防災会長の野崎盛夫さん
刈屋川と流された日蔭橋



台風10号の爪あとと地域のつながり ～防災に地域で取り組む～

8月30日に本市を通過した台風10号は、本市の観測史上最大の1時間に80ミリという降水量を記録しました。閉伊川、長沢川、刈屋川、小国川など河川の増水による道路の決壊や橋の流失、住宅地への浸水、大雨による土砂崩れなど甚大な被害をもたらしました。避難勧告や避難指示が発令され、避難所42か所に最大で1,066人が避難しました。孤立した集落もあり、地域防災力の向上が求められています。

道路が決壊し、分断された国道106号（墓目・茂市間）



▷流木でふさがれた市道三ツ石西家線（川井）



▷舗装が流失した市道大仁田新田線（川井）



▷落橋した国道340号（新里和井内地区）

－茂市区自主防災会の取り組み－



▷8月28日総合防災訓練に参加



▷8月31日の朝、避難所での炊き出し



▷9月3日片付け作業に集合した地区住民とボランティア

自主防災組織とは？

「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、地域の連帯感に基づき、自主的に結成する組織です。災害時、自助・共助・公助の連携が必要とされていますが、自主防災組織は「共助」における中心的な役割を担います。

●あなたの地域はどうか ～地域防災体制～

宮古市では、平成9年から現在まで、45組織が結成されています。大規模な災害が発生すると、防災関係機関による救助や消火などの活動が十分にできない場合も予想されます。このようなとき、地域ぐるみの防災活動が災害を最小限にとどめるばかりか、住民の避難行動や避難所の開設運営、スムーズな復旧活動にも大きな力を発揮します。

●まず、災害や地域の基礎知識を

災害による被害は、その地域の地形などの環境によって大きく異なります。地域の特徴や弱点などをよく知っておくことが第一歩です。

●自主防災組織の活動

平常時と災害時の活動に分かれます。平常時の点検や訓練などを無駄とは思わず地道に積み重ねることで、災害発生時に組織として機能するようになります。

いざというときに協力し合えるように日ごろから地域内の交流を深め、災害に強い地域づくりに取り組んでみませんか？

～自主防災組織について気軽にお問い合わせください～
市危機管理課防災係（市役所本庁舎4階） TEL68-9111

みんなの力で地域を創る

地域創造基金は地域住民の連帯強化や地域振興のための事業に活用されています。
 平成28年度9月以降は、台風10号被害の影響で中止になったイベントが数多くありましたが、実施された8事業を紹介いたしますので、これらを参考に基金活用を検討してください。

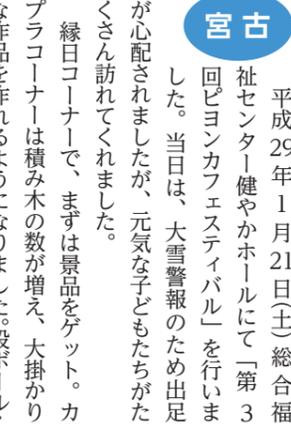
ウエルカムフラワー 昭和通りのおかみさんもてなしたい



バスケットを作る小学生たち

宮古を訪れる方々に歓迎の心を伝えるため、4月中旬から11月下旬まで、JR宮古駅や三陸鉄道ホーム、宮古駅前広場や商店街、浄土ヶ浜などに花を植え付けたハンギングバスケットを飾りました。これらバスケットは、4月16日、6月25日に岩手県立大学宮古短期大学の学生、市民ボランティア、JR宮古駅や三陸鉄道の職員、おかみさんの計60名、6月21日に津軽石小学校3年生36名、6月23日に宮古小学校4年生32名の計128名で作成しました。特に小学生は、バスケットの作成を心待ちにしているようです。おもてなしの心が育まれていることをうれしく思います。

ピョンカフェスティバル MIYAKO Revolution21



宮古

平成29年1月21日(土)総合福祉センター健やかホールにて「第3回ピョンカフェスティバル」を行いました。当日は、大雪警報のため出足が心配されましたが、元気な子どもたちがたくさん訪れてくれました。
 縁日コーナーで、まずは景品をゲット。カプラコーナーは積み木の数が増え、大掛かりな作品を作れるようになりました。段ボール・手作り工作コーナーは、今年も大人気。時を忘れて遊ぶ姿が見られました。くらうん・しゅーがーさんのショーでフィナーレ。ボランティアさんに支えられ、無事イベント終了。これからも、多くの人に笑顔を届けられるように取り組んでいきたいと思えます。



熱中して遊ぶ参加者の皆さん

田老



田老まちづくり協議会 田老地区復興まちづくり協議会

本協議会は、田老地区に魅力あふれる充実した居住・就労環境からなる定住促進策を検討し、復興まちづくりの具体的な案を宮古市等に提案することを目的に活動し、設立して4年目となりました。
 今年度は、4月に「田老地区の産業を軸にした復興まちづくり」に関する意見交換会を行い、得られた意見をもとに、「産業振興による復興まちづくり」について、宮古市長に提言しました。また、当初から新しいまちづくりの拠点として検討されていた田老第一小学校付近への「新駅」の設置についても提言しました。
 今後は、地域住民の復興状況に合わせて、田老地区全体のまちづくりにつながる活動をしていければと考えています。

川井



江繋早池峰神楽の舞

頑張る小国の集い 小国地域づくり委員会

小国地区の恒例行事「踊りフェスタOGUNI」は台風10号の影響で中止のやむなきに至りました。代わって国道340号立丸第二トンネルの開通を記念して「頑張る小国の集い」が開催されました。これまでの里の駅への取り組みを振り返り、さらに実現を確実なものにしようとの決議文の採択等を行いました。また、初めての取り組みとして「小国川流域名品セレクション」も開催し多くの出品から審査の結果優秀作品を表彰しました。そのあとは文化交流として神楽の競演などのアトラクションで楽しめました。



民謡歌手佐野よりこさんと地元の方の飛び入り参加

宮古



華やかなイルミネーション

今年からメッセージを募集

復興 冬のイルミネーション 宮古商工会議所青年部

震災復興のシンボルになればとはじめた市役所前歩道橋のイルミネーション。今回は11月23日(水)〜2月26日(日)まで点灯いたしました。フェイスブックなどを利用して設置作業の協力を呼び掛けたところ、昨年の倍以上となる53名に協力いただき、約10万球の電飾を取り付けることが出来ました。
 冬のイベントとしての定着を実感している中、今回は観に来られた方からのメッセージをステッカーにし、アーチのフレームに貼る取り組みを始めました。鑑賞だけでなく、市民参加型の事業を目指していきます。

第70回記念田老地区体育大会 田老地区体育大会実行委員会

田老地区体育大会は、「戦後からの復興」を願って昭和21年に第1回大会が開催され、今年度は、第70回の記念大会であることから、テーマを「今こそ見せよう ふるさと田老70年の絆」とし、田老第一中学校校庭を会場に10月9日に開催いたしました。
 昨年に引き続き、三陸沿岸道路宮古田老工区の皆さんや、姉妹都市の八幡平市・黒石市の皆さんに参加いただいた他、今回は震災以降支援をいただいている、早稲田大学心援部及び青山学院大学の皆さん、全国から当市に派遣されている職員の皆さんにも参加いただき地区住民との交流を図りました。東日本大震災以降、団体対抗戦型として行うことができなかった、「田老名物」「スティックボーリング」「綱引き」などの競技への参加を自治会に呼びかけたところ、7チームから参加いただき、以前の体育大会を彷彿させる盛り上がりを見せました。
 来年度も引き続き、自治会で競い合える団体競技を取り入れ、地区対抗戦の盛り上がり復活させると共に、地域の絆を深める一助になることを願い、開催に向けて取り組んでいきたいと考えています。



力自慢が集結した「綱引き」



往年の技が光る「田老名物」

新里



大勢の来場者で賑わう会場内

和井内ふるさと収穫祭 和井内区

11月6日、青空のもと、地域活動の拠点である和井内ふるさと会館において、区民手づくりによる第15回和井内ふるさと収穫祭を開催しました。
 当日は、朝早くから賑わいをみせ、宮古駅から運行した無料送迎バスも満席での運行となるなど、多くの方々に来場いただきました。
 各テナントに並んだ餅、まんじゅう、団子類をはじめ地元産の野菜や米、果物などの山の幸や手作りの汁物類は、瞬く間に完売し、会館内で行われたそば打ち体験や食堂での十割そばも大好評でした。
 舞台では、歌や踊り、お楽しみ抽選会、そして餅まきと多彩なステージが繰り広げられ大勢の来場者に楽しんでいただきました。
 新里地域は、8月の台風により河川が氾濫し、橋や道路が流出、多くの家屋が浸水するなど大きな被害を受けましたが、地域に元気を取り戻そうと区民一丸となって、今回の収穫祭を開催したところです。
 今後も、より一層の創意工夫のもと、魅力あふれる地域イベントになるよう精進したいと思えます。

川井



地元食材を使った鍋のおふるまい

江繋地区収穫感謝祭 江繋郷土芸能保存会

ふるさとの郷土芸能や食をテーマに、来訪者との交流を図ることを目的に江繋地区収穫感謝祭を11月13日(日)に旧江繋小学校校庭で開催しました。
 天候にも恵まれ、たくさんのお客様にご来場いただき川井地域の郷土芸能、ゲスト団体の「黒川田植え踊り」や歌謡ショーなどを鑑賞しました。
 今年は趣向を変え、この一年に各地区で収穫した食材を持ち寄り災害用大鍋で調理し、来場者におふるまいという形で郷土食を紹介しながら地元食材のPRを行いました。
 川井小学校の全校生徒による絵画コンクールを開催し、児童の書いた絵に地区内外のお客様も目を細めていました。

宮古市地域イベントカレンダー H29.4月以降の事業紹介

平成 29 度 4 月以降に予定されている地域創造基金事業を活用したイベントや行事などを紹介します。
 ※天候などの事情により、事業の中止や日程・場所などが変更になる場合があります。

月	日 程	イベント名(事業名)	開催場所	内 容	主 催	地 域
4	15日(土)~	ウェルカムフラワー	宮古駅をはじめとするJR山田線の各駅、駅前商店街など	ウェルカムフラワーの飾りつけ ※11月まで実施予定	昭和通りのおかみさんもてなしたい	宮古
5	21日(日)	復興たろう大漁まつり	田老漁港地内	神輿や曳き舟、ステージイベントなど	たろう大漁まつり実行委員会	田老
6	18日(日)	閉伊川釣り大会	閉伊川本・支流	3匹計量。河川の空き缶などごみ回収が必須。	川井大自然交流実行委員会	川井
7	2日(日)	木の博物館体験	木の博物館	分館ツアー	川井大自然交流実行委員会	川井
7	15日(土)~17日(月)	フライフィッシング体験	閉伊川本・支流	インストラクターによる釣り指導	川井大自然交流実行委員会	川井
7	16日(日)	第25回「海の日」宮古港カッターレース	宮古市魚市場前	9m艇を使った市民参加のカッターレースの開催	宮古港カッターレース実行委員会	宮古
8	5日(土)	サマーフェスタにいさと2017	新里トレーニングセンター特設会場	招待郷土芸能、交流カラオケ大会、歌謡コンサート、抽選会、出店など	サマーフェスタにいさと実行委員会	新里
8	6日(日)	第52回「音楽の夕べ」	宮古市民文化会館大ホール	市民参加の合奏団・合唱団とプロとの共演による音楽会の開催	宮古市で交響曲を演奏する会	宮古
8	11日(金)	僕らの夏祭り	赤前コミュニティ消防センター	子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる夏祭りの開催	僕らの夏祭り実行委員会	宮古
8	11日(金)	おらほの夏まつり2017	田老地区イベント広場(予定)	花火大会や盆踊り、出店など。	WARADUKA	田老
9	3日(日)	閉伊川川下り大会2017	閉伊川特設会場(湯ったり館下河川敷)	ゴムボートによる川下り	閉伊川遊イング事業実行委員会	新里
9	24日(日)	2017 オータムフェスタ in 区界高原	道の駅区界高原	特産品等のPR、販売	project かどま実行委員会	川井
10	1日(日)	川井地域大運動会	川井小学校	川井地域住民総参加の大運動会	川井地域大運動会実行委員会	川井
10	8日(日)	第71回田老地区体育大会	田老第一中学校校庭	田老地区住民の大運動会	田老地区体育大会実行委員会	田老
10	22日(日)	早池峰マラソン交流推進事業	主会場 川井中学校	峠コース 30km 里コース 5km/10km	特定非営利活動法人 かわい元気社	川井
10	29日(日)	川井郷土芸能祭	川井小学校	川井地域郷土芸能団体の活動成果発表	川井郷土芸能団体連絡協議会	川井

月	日 程	イベント名(事業名)	開催場所	内 容	主 催	地 域
11	5日(日)	和井内ふるさと収穫祭	和井内ふるさと会館	地域農産物、餅・団子等の販売 十割そば食堂開設 ステージイベント など	和井内区	新里
11	12日(日)	江繫地区収穫感謝祭	旧江繫小学校	地域の郷土芸能発表、写真・絵画コンクール開催	江繫郷土芸能保存会	川井
11	18日(土)~	復興冬のイルミネーション	宮古市役所前歩道橋	イルミネーションの設置 ※平成30年2月25日(日)まで実施予定	宮古商工会議所青年部	宮古
11		踊りの里 OGUNI	旧小国小学校	郷土芸能等の発表、名産品・写真コンクール	小国地域づくり委員会	川井
1	20日(土)	ピヨンカフェスティバル	宮古市総合福祉センター健やかホール	手作り工作や積み木など、親子が遊べる場の提供	MIYAKO. Revolution21	宮古
	通年	新里地区生涯スポーツ推進事業	新里トレーニングセンター、新里生涯学習センターなど	グラウンドゴルフ大会、バドミントン講習会、スポ・レク祭などを開催し、生涯スポーツを推進	新里地区生涯スポーツ推進協議会	新里
	通年	和井内軽スポーツ大会	旧和井内小学校グラウンド	年間を通じて、軽スポーツ大会(グラウンドゴルフ・ベタンク・シャッフルボード等)を開催し、閉校した小学校の活用と環境整備を図る	和井内地区健康推進実行委員会	新里

参加者募集! ウェルカムフラワー/バスケット作り 4月15日(土) 9:00~16:00
 宮古駅前広場でバスケット作りを行う予定です。興味のある方は、昭和通りのおかみさんもてなしたい ☎62-3632 までご連絡ください。

平成29年度 地域創造基金事業追加募集!

宮古地域自治区・新里地域自治区では、地域創造基金事業の追加募集を行います。
 ※田老・川井地域自治区での追加募集はありません。

- ◆対象となる事業 地域の自主的な活動やイベント、地域自治区の振興に資する活動やイベント、地域文化の伝承、地域づくり団体などの育成支援など(4・5ページ参考のこと)
- ◆応募資格 市内に所在する団体(自治会、実行委員会など)
- ◆応募期限 書類を作成し、下記申込・問合せ先に提出。地域協議会での審査を経て、採択となります。

応募期限	事業実施時期
平成29年3月31日	7月頃~平成30年3月20日前後



◆審査のポイント ☆プレゼンテーションは、発表5分・質疑応答15分の20分間です。
 ☆「公共性・公益性」「地域づくり」「事業の緊急性・必要性」「事業の効果」それぞれ5項目、合計20項目(100点満点)で評価します。
 ☆評価の平均点が80点以上で採択、61~79点は協議により採択の可否を決定、60点以下で不採択です。※助成額は、精査のうえ減額の可能性があります。
 ☆書類作成、プレゼンテーションにあたっては、各地域協議会事務局にご相談ください。

- ◆申込・問合せ先
 - 宮古地域自治区(宮古地域協議会事務局) 〒027-8501 宮古市新川町2-1 宮古市役所 企画部企画課企画調整係 ☎68-9064 FAX 63-9114
 - 新里地域自治区(新里地域協議会事務局) 〒028-2101 宮古市茂市2-112-1 新里総合事務所地域振興係 ☎72-2111 FAX 72-2116

黒石市・宮古市 姉妹都市締結50周年

青森県の中央部にある黒石市。十和田八幡平国立公園西玄関口に位置し、東は八甲田連峰が連なり、三方は津軽平野が開け、古くから城下町として栄えてきました。豊かな自然と温泉に恵まれ、りんごと米の産地として知られているほか、津軽系こけし発祥の地としても有名で、四季の彩り豊かな田園観光都市です。

その黒石市と宮古市は、昭和41年4月1日に姉妹都市の盟約を交わし、平成28年4月1日で、姉妹都市締結50周年を迎え、様々な記念事業を実施しています。

○記念祝賀会・記念曲作成・記念誌作成・芸術文化交流・スポーツ交流・中学生交流・津軽石川の伝説再現 ほか

6月

黒石こけし駅伝に宮古から参加



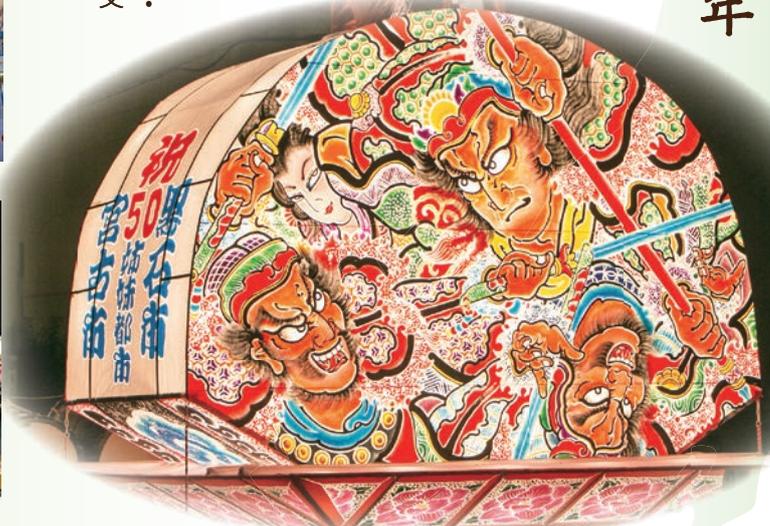
9月

宮古市産業まつりに黒石高校チアリーディングほか多数出演



11月

黒石りんごまつりに宮古から出演



7月 黒石ねぶたまつり 50周年を記念した色彩鮮やかな扇ねぶた

12月

宮古鮭まつりでの伝説の再現



12月

記念祝賀会で記念曲を合唱



津軽石川の伝説

宮古市と黒石市には、ある伝説があります。

日本有数の南部鼻曲鮭の漁場になっている津軽石川。それは、昔、弘法大師が青森からの帰途、今の黒石を流れる浅瀬石川から持ってきた石を津軽石川に投げ込んだことで、鮭の遡上が始まったと言われています。（諸説あり）

また、歴史的な縁でもつながりがあります。

現在の黒石を治めていた浅瀬石城主千徳伊予守行重が領地となっていた宮古の千徳で死去。同地において現在の華厳院に葬られました。これらの歴史を背景に、つながりは強固なものになっています。

特に、平成23年東日本大震災の際には、黒石市から多大な支援をいただきました。都市間の距離は離れていても、困難な局面に遭遇したときに、互いに助け合う関係性が育まれています。

感謝の気持ちを忘れずに、縁と絆を大切にしながら、60年、100年と、心と心の交流を続けていきます。